

豊中市立図書館における高齢者サービスのあり方について

高齢化社会における図書館の役割

1. 高齢者の情報アクセスを保障する（高齢者が情報から隔離されない）

① 誰もが、いつでも、どこでも資料・情報を得ることができる

- －身体が衰えても、身近な場所で、本を借り、返却することができる
- －高齢者施設に入居している人、寝たきりの人、来館困難な高齢者、認知症高齢者へ資料や情報が届く
- －高齢者施設内などでも資料を自分で手に取って選ぶことができる
- －活字から情報を得ることが難しくなっても、情報を得ることができる

② インターネットやパソコンを使わない（使えない）人を取りこぼさない

- －高齢者がオンラインやパソコンを利用してみようと思うきっかけをつくる
- －案外やってみると楽しいことを伝える
- －何度でも繰り返し学べる、尋ねることができる、やってみることができる機会をつくる
- －デジタル社会への対応を支援する

③ 図書館の主たる資料群（書籍や録音情報）の活用

- －インターネットに頼らない情報発信も必要
- －CD等の耳から情報を得るツールも活用する
- －災害時の資料・情報提供などにも備える
- －配架場所の工夫などにより、大活字本、CD、健康に関する実用書など高齢者のニーズが高い資料をアピールし、活用を進める
- －市製作の健康体操DVDなどを活用する

2. 高齢者の課題解決を支援する

- －図書館を利用しない人、来館困難な人に対しても、その人の課題解決につながる
- －図書館を利用する高齢者を刺激する（芽吹かせる）
- －高齢者のライフデザインを考えるきっかけを提供する

3. 場としての役割

- －ホッとできるスペースや図書館で相談できるスペースをつくる
- －高齢者保健福祉・介護保険事業とそれを必要とする高齢者をつなぐ
- －職員や利用者と日常的に図書館で会話できるような雰囲気が大切
- －居場所から発表の場、次につながる場へ
- －図書館が居場所を見つける場となる
- －ソファや座席数の不満への対応も必要

高齢者へのサービスを効果的に提供する上での必要な要件

1. 図書館だけで完結するのではなく、身近な場所で図書館サービスが受けられる仕組みをつくる
2. 地域のネットワークにつなぐ
 - －行く場所がある、必要とされる
 - －図書館を使わなくても地域の何かのネットワークにつながる
 - －図書館に来られない時や直接集まることができなくても、つながりを持つことができる
 - －高齢者と子どもたち、学生、若者、中年世代など、世代を超えた交流の機会をつくる
3. 高齢者を支える人につながる
 - －高齢者の家族、介護者、介護予防センター、高齢者施策の担当課、高齢者施設など、高齢者を支える人と連携する
 - －高齢者を支える人に資料・情報を提供する
 - －認知症高齢者の家族や、高齢者を支える人同士の交流の機会をつくる
4. 関係機関・部局と連携する
 - －関係機関・部局の情報を図書館から取り出せる
 - －関係機関・部局の施策に関連した資料・情報提供を行う
 - －高齢者施策との関連だけでなく、教育や福祉など様々な分野での多面的な連携の取組みを進める

図書館で高齢者サービスに取り組む上でのポイント

1. 情報発信のポイント
 - －人生を豊かにするための情報を図書館から発信する
 - －高齢者サービスを一括りにするのではなく、図書館側から多様な利用のモデルを示していく
 - －高齢者を支える人を通じて情報を届ける
 - －関係機関・部局に対し図書館の機能を示し、市の施策や取組みを図書館を通じて発信する
2. コロナ危機後の社会を見据える
 - －高齢になっても図書館サービスの利用が無くなることを防ぐ
 - －来館できない時もつながりを持つ
3. デジタル社会への対応
 - －オンラインを活用した図書館サービスの推進には、デジタルデバイドへの対応が必須
 - －インターネット環境がない人への情報提供も必要